
肝ったまお嬢様奮闘記

相神 透

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

肝ったまお嬢様奮闘記

【Nコード】

N9438X

【作者名】

相神 透

【あらすじ】

病死したベテラン看護婦が、異世界に転生して奮闘する話。話の結末はまだ決めてません。習作なのでありふれた話になってます。

序章 〽転生〽(前書き)

とりあえず始めてみました。走りながらストーリーを考えていきます。

序章　く転生く

・・・もう、死ぬ覚悟は出来ていた。何か月も病院のベッドに縛り付けられているのだ。病室の窓から見える季節はすでに一巡し、二回目の秋を迎えようとしている。何か月も前に、自分の病気が不治のものであることも、進行し続けていることも、説明を受けている。だからもう、死ぬことは怖くはない。いや、怖くないと思っていた。

自分だけのことならば充分生きたといえるかもしれない。平均寿命にはまだまだあるとはいえ、50年も生き、看護師として働き、そして医師の夫と結婚し、二人のこどもにも恵まれた。夫と二人で多くの命を救ったし、多くの命を見送った。充実した人生だったと思う。ただ、この子たちを残していくことだけが心残りだけれども、二人とも、もう成人しているのだ、私が子離れできていないだけなのかもしれない。

ただ、それでもまだ生きたい、生き続けたい。夫や子どもと一緒に時間を過ごしたい。笑い合いたい。抱き合いたい。そう願ってしまう。願っても叶わないし、願うだけつらくなるだけなのに。

ああ、そろそろ終わりだ。体から力が抜けていくのがわかる。呼びかける家族の声が遠くなる。ああ、最後くらいは笑いかけてほしい。笑顔を見せほしい。私も笑顔で、逝くから、笑顔を覚えておいてほしいから。さようなら子供たち、さようならあなた、さようなら・・・

「ご臨終です」

医師のその声は、私には届かなかった。



目が、覚めた。覚めるはずがないのに。ゆっくり開いた眼には白く柔らかな光が差し込んでくる。生き、てる、のか。まだ生きられるのだろうか。また、笑いあえるのだろうか。狂おしい希望が胸に湧き、感情がほとばしる。衝動的に声を張り上げた。

「おぎゃあ、おぎゃあ、ぎゃあああああ」

私の喉からでたのは赤ん坊の泣き声。

・・・そのあと、私が事態を把握し、納得するまでには長い時間が必要だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9438x/>

肝ったまお嬢様奮闘記

2011年10月26日14時09分発行